

いしかり
博物誌
138



写真① 紅葉山52号遺跡出土の曲物(中世～近世)
器の高さ(縦幅)約11cm

曲物はどこからきた？

花川南の発寒川河川敷と屯田の境界に位置する紅葉山52号遺跡。この遺跡から見つかった出土品の一つに、中世から近世のものと思われる曲物があります(写真①)。曲物とは、ヒノキやスギなどの薄板を曲げて、サクラの樹皮などでとじたもの。今ではあまり使われなくなりましたが、蒸籠や柄杓(写真②③)、曲げわっぱの弁当箱などで見かけることがあります。この遺跡で出土した曲物は側板の一部分で、本来は底板の付いた容

器であつたと思われます。器の高さは約11cmで、細かな木目がまっすぐに並んだ、柾目の薄板を樹皮で丁寧にとじ合わせています。また、器の上下2カ所には、補強用に回したとみられる幅2.5cmほどの飾り輪も付けられており、特徴的な部分が残っています。曲物は、本州以南では古くから暮らしの中で用いられ、8世紀ごろには広く普及していたとみられます。一方、北海道ではそれほど古くから普及していたわけではない

ようです。なぜなら、曲物の材料によく使われるヒノキやスギの分布が主に本州以南であつたためと考えられます。紅葉山52号遺跡から出土した曲物は、樹種同定の結果から、ヒノキ科アスナロ属であることが分かつています。この樹種は、石狩周辺には見られないことから、近隣の樹木を材料にして作つたものではなく、本州で作られたものが石狩に入ってきたものと推測されます。さらに、この遺跡

から出土した遺物の中には、スギの板材もわずかに確認されました。スギも石狩周辺には分布していないことから、もとは道外のものであつたと考えられます。このように、遺跡に埋もれていた遺物の数々は、一見すると単なる破片にすぎませんが、それらの素材の種類を調べたり、作り方を観察したりすることで、昔の人々の交流やモノの動きが見えてきます。そして、その小さな発見の積み重ねが、歴史をひとつとく一歩につながるのです。



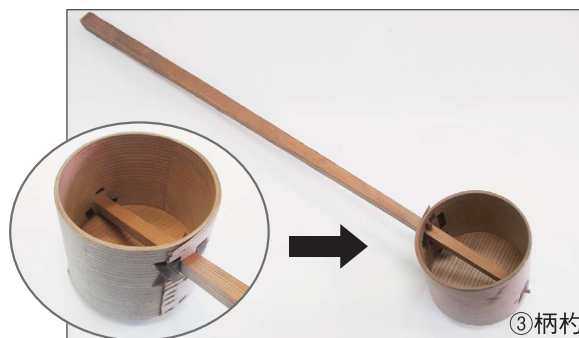
荒山千恵 Chie Arayama

専門分野は考古学。北海道での遺跡発掘調査をはじめ、出土した木の道具、音の考古学などの研究を行う。



②蒸籠

写真②③ 曲物の例(昭和)



③柄杓

ERIS「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。